

★伊佐具神社(いさぐしんじや)はどんな神社？

伊佐具神社は、尼崎市で最も古い歴史(れきし)を持つ神社です。市内で、ただひとつの式内社(しきないしゃ)です。「式内社」とは、神様を祭る(まつる)のに、朝廷(ちやうてい)・国(くに)から、費用を出してもらえる神社のことです。その費用を幣帛料(へいはくりよう)と言います。

さらに、川辺郡(かわべぐん)の式内社7社の中で唯一(ゆいいつ)、皇室(こうしつ)から鍬(くわ)や鞆(うつぼ・ゆき)が贈り物(おくりもの)として、とどけられていました。『摂津名所図会(せつつめいしよずえ)』というむかしの本に、そのことが記録されています。

また、「延喜式玄蕃寮(えんぎしきげんば)りよう」という本には、「新羅(しらぎ)からの客に出す神酒(しんしゆ)をつくる稲(いね)を送る神社にえらばれた」とあります。つまり、外国の大切なお客さまをもてなす「神様のお酒」…これに「伊佐具神社の神」がえらばれたということです。

伊佐具神社にまつられている神様は、伊狭城入彦皇子(いさぎりひこのみこ)です。景行天皇(けいこうてんのう)の10番目の皇子(おうじ)で、兄には日本武尊(やまとたけるのみこと)がいます。伊佐具神社がいつたてらたのか、くわしいことはわかりませんが、西暦(せいれき)192年に即位(そくい)した仲哀天皇(ちゆうあいてんのう)よりも前との説もあります。

伊佐具神社は、特別に格式(かくしき)の高い神社、とおい昔につくられた歴史のある神社ということがわかります。

- * 「神様を祭る」とは、神様をたいせつに思いながら、おいのりすること
- * 「格式が高い」とは、ランクが上ということ
- * 「朝廷」とは、天皇・貴族(てんのう・きぞく)が政治(せいじ)を行なう場所やしくみのこと
- * 鞆(うつぼ・ゆき)とは、矢(や)を入れる細長いつつ
- * 「川辺郡」とは、摂津国(せつつのくに)。今の川西市全部、伊丹市、尼崎市、宝塚市の大部分、三田市、大阪府豊能郡豊能町の一部
- * 「新羅」とは、1000～2000年前、古代の朝鮮半島(ちやうせんはんとう)南東部にあった国家
- * 「日本武尊」とは、日本古代史上の伝説的英雄(でんせつてきえいゆう)
- * 「即位」とは、その役目につくこと。天皇に即位するとは、天皇になること。